各湿地における保護すべき種・課題・保全活動の内容

K湿地【ギフチョウが舞う明るい湿地】

●ヒメカンアオイ　・カザグルマ　・ヘビノボラズ
●ギフチョウ　・ヒメタイコウチ　など

・周辺樹木の成長に伴い全体的に林床が暗くなり、ギフチョウの食草であるヒメカンアオイが減少傾向にある。
・豪雨の際に湿地流末部に土砂が流入し、水道を塞いで中央部に水が滞留するようになり、湿地内部の堆積物が増加傾向にある。

・湿地及びその周辺の日当りを良くするため、常緑樹の大木を伐採し、特に低木は５～７割程度を間伐する。
・全面的な下草刈りを年１回（秋）程度行う。
・水路際や林道際など林縁部の樹木や草本は、外部からの影響を緩和させるマント・ソデ群落として一部残存させる。
・塞がれた水道を回復させ、水が常時流れる湿地を復元する。

C湿地【貧栄養湿地の復元を目指す】

●ムラサキミミカキグサ　・サワギキョウ　など

・樹木、ササ類、イネ科草本類、シダ類が侵入してきている。
・腐植層の増加が懸念される。
・河床の浸食に伴い沢の水位が低下しつつある。

・湿地の日当りを良くするため、周辺樹木の伐採・枝打ちを行う。
・全面的な下草刈りを年２回（初夏及び晩秋）程度行う。
・河床低下に対する対策を継続的に実施する。

B湿地【湿地性動物の生息する湿地】

●アズマヒキガエル　・ホトケドジョウ　・シマアメンボ　など

・樹木、ササ類、イネ科草本類、シダ類等が侵入してきているため、伐採・枝打ち、下草刈り等の継続的な維持管理が必要。
・河床の浸食に伴い沢の水位が低下しつつある。

・湿地の日当りを良くするため、周辺樹木の伐採・枝打ちを行う。
・全面的な下草刈りを年１回（秋）程度行う。
・カエル類等の生息場として、現在ある水溜りを維持・整備する。

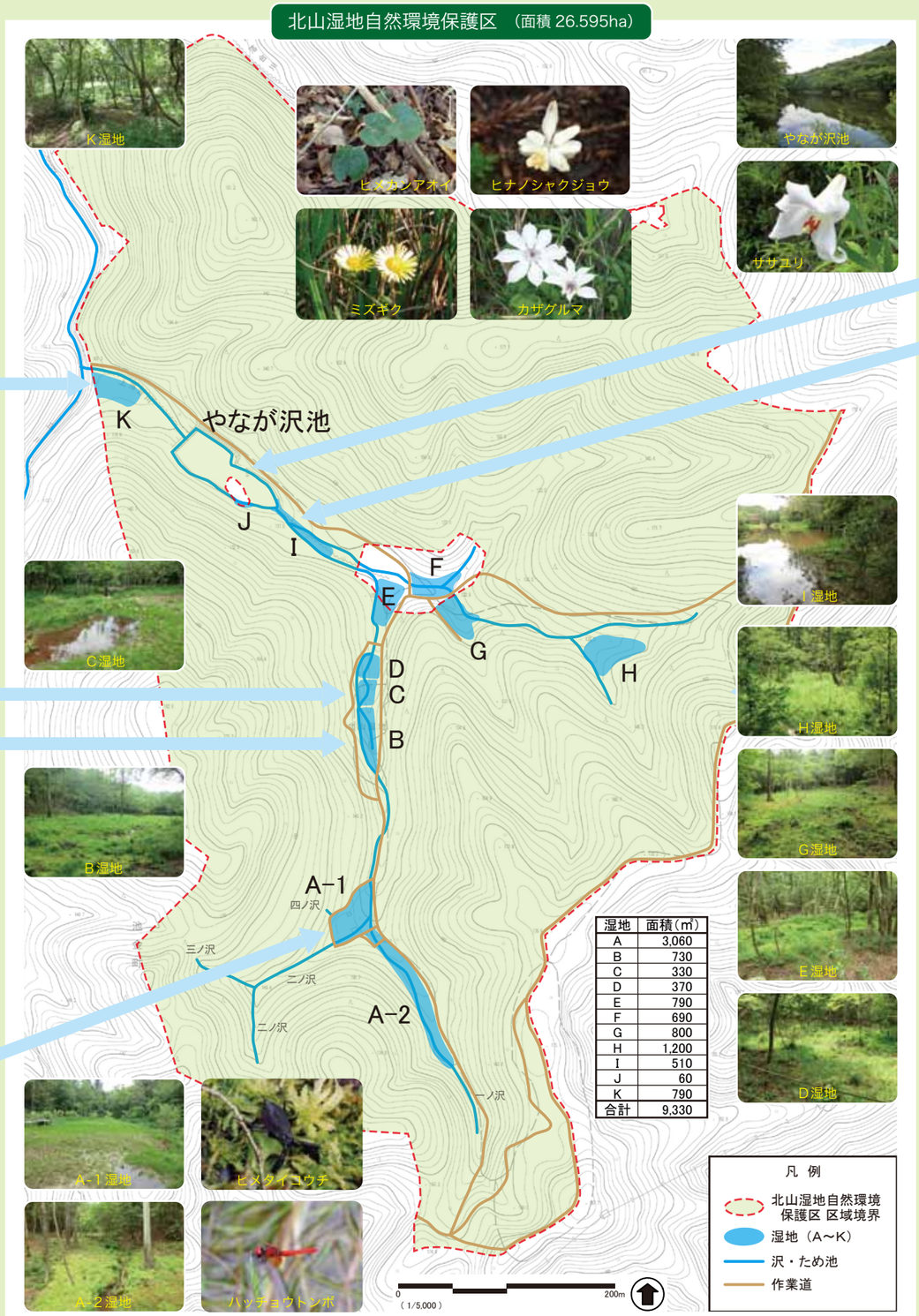
A湿地【生物多様性豊かな湿地】

●ムラサキミミカキグサ　●コミゾソバ　・ミズギク
●ハッチョウトンボ　・ヒメタイコウチ　など

・A-１湿地は、樹木、ササ類、シダ類等が侵入してきているため伐採・枝打ち、下草刈り等の継続的な維持管理が必要。
・A-１湿地の貧栄養湿地では、腐植層の増加が懸念される。
・A-２湿地は、周辺樹木の成長に伴い全体的に暗くなっている。

・湿地の日当りを良くするため、周辺樹木の伐採・枝打ちを行う。
・全面的な下草刈りを年２回（初夏及び晩秋）程度行う。
特にムラサキミミカキグサの生育する砂礫地の周囲は、踏み荒らしに注意しつつ、念入りに行う。
・樹木の伐採・枝打ち、下草刈りにあたっては、コミゾソバ、ヘビノボラズ、レンゲツツジ等を切らないよう留意する。

北山湿地自然環境保護区　（面積 26.595ha）



湿地	面積（㎡）
A	3,060
B	730
C	330
D	370
E	790
F	690
G	800
H	1,200
I	510
J	60
K	790
合計	9,330

●特に保護に留意すべき種・保護すべき種　主な保全上の課題　主な保全活動の内容

やなが沢池

●ミズオトギリ　・ササユリ　●タベサナエ　など

・池岸では、周辺樹木の成長に伴い全体的に暗くなっている。
・北岸の草地では、ササ等の侵入に伴い草本類が減少傾向にある。
・ウシガエルの他、池内に外来種が生息している可能性がある。

・明るい水辺を維持するため、秋以降、草地の草刈りを実施する。
・一度に全面的な草刈りは避け、多様な水辺の維持に配慮する。
・外来種の調査・駆除のため、池の水抜きの実施を検討する。

I湿地【多様な水草が生育する水際湿地】

●アギナシ　●ナガエミクリ　・フトヒルムシロ

・やなが沢池東端の水際は、周辺樹木の枝張りによって上空が覆われ全体的に暗くなっている。
・沢沿い湿地は、周辺樹木の成長に伴い全体的に暗くなっている。

・やなが沢池の水際の日当りを良くするため、上空を覆う樹木の伐採・枝打ちを年１回（初夏）程度行う。
・沢沿い湿地では、樹木の伐採・枝打ち、下草刈り等を行う。

D・E・G・H・J湿地【湿地の維持に努める】

●オオミズゴケ（D・E・G）　・ヘビノボラズ（D）
●ヒメタイコウチ（D・E・G）　・ムカシヤンマ（G）　など

・周辺樹木の成長に伴い全体的に暗くなっている。
・樹木、ササ類、イネ科草本類、シダ類の侵入に伴いミズゴケ類が減少傾向にある。（D・E・G）
・河床の浸食に伴い沢の水位が低下しつつある。（D・E）

・湿地の日当りを良くするため、周辺樹木の伐採・枝打ちを行う。
・全面的な下草刈りを年１回（秋～冬）程度行う。（D・E・G）
・ミズゴケ群落の維持を目指す。（D・E・G）
・樹木の伐採・枝打ち、下草刈りにあたっては、ヘビノボラズ、ヤマドリゼンマイ、タニヘゴを切らないよう留意する。（D・E）

本湿地では、学識者で構成された「岡崎市動植物調査会」による動植物相調査が継続的に実施され、報告書が作成されている。
また、市民団体の「おかざき湿地保護の会」により草刈り等の保全活動のほか、観察会での案内、動植物調査、監視パトロールなどの活動が実施されている。

保全活動の実施状況

ムラサキミミカキグサ

本湿地はムラサキミミカキグサが多く、全国的にも有数の多産地と考えられる。従来１種とされている本種には、花の形態及び葉の大きなものと小さなものの２タイプが同所的に存在している可能性があり、現在、本湿地にて遺伝子調査が進められている。このように湿地には新種が眠っている可能性がある。